

# 5月例会は『今さら言えない小さな秘密』

## フランスの南、プロヴァンス地方の小さな村での小さな騒動

若葉の薫季節になりました。3年前から新型コロナウイルス感染症による世界的な閉塞感を体験しましたが、5月中旬からこの感染症の感染症法上の位置づけが5類になり、マスク着用は個人の判断にゆだねられることになりました。が、会場ではできるだけマスクを着用し、みんなで気持ちよく映画を楽しみましょう。

さて、3月例会では49名の方が2023年度会費を前納されました。郵便局一括引き取り希望者は10名と半数の方が納入くださりありがとうございます。この1年間で、会員を増やし安定した運営を継続していかなければいけないと、運営委員一同気を引き締めて活動していきます。

### 例会のお知らせ

■名称／第123例会『今さら言えない小さな秘密』

■日時／2023年5月17日(水)

①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～

■場所／加古川総合文化センター大会議室



(JR東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。



【例会作品データ】

■タイトル／『今さら言えない小さな秘密』

■監督／ピエール・ゴドー

■出演／ブノワ・ポールヴァールド、エドゥアール・ベール、スザンヌ・クレマン

■データ／2018年、フランス、90分

■ジャンル／ヒューマンドラマ、コメディ

■原作／ジャン＝ジャック・サンペ『とんだタビュラン』  
■ストーリー／自転車にまつわるある伝説を持つ、南仏プロヴァンスの美しい村に暮らす自転車修理工ラウル。愛する妻と子供たちにも恵まれ順風満帆に見えるが、実は誰にも言えない子どもの頃からの秘密があった。一本当は自転車に乗れない！—のだ。自転車を愛して生業にする彼にとって、それは悲しく致命的なこと。時が経つほど誰にも打ち明ける勇気がでない。ある日、村人を撮っている写真家が、ラウルが自転車に乗って坂道を下る決定的な瞬間を撮影しようと言ってきた。さあ大変、なんとか阻止しようと試みるが…。秘密を抱えて幾年月、もしバレたら、家族の愛も村人たちの尊敬もすべて失ってしまう！？果たして、ラウルと家族に平和は訪れる？(作品ホームページから)

### 定例総会の報告

2023年度総会を4月22日(土)午後4時から加古川町粟津の加古川珈琲にて行いました。出席者6人、委任状10人。計16名で議案の検討をし、ほぼ原案どおり議決されました。

まず、2022年度の活動報告と決算報告について。一般オープンの特別例会(9月『飛べダコタ』と『ひまわり』)での利益と郵送料の節約(計5万円以上の切手の寄付協力ありがとうございます)で黒字となりました。最も大きな課題である会員数については、平均125名となかなか増やすことができませんでした。現在119名。

議案1「役員」は、代表委員に山本芳明さんと千知佐子さん、事務委員に山本さん、菅さん、監査委員は松本さんです。議案2「活動計画」では、11月例会まで作品が決まりました。7年前から行っている明石シネマクラブとの例会相互参加事業は好評で、引き続き継続します。運営委員会は、2か月に1回第4土曜日16時から北在家「加古川珈琲」で開いています。(5月27日、7月22日)どなたでも参加できます。一度覗いてみてください。上映作品は、今の会員数と財政状況では、1本の料金が121,000円以下のものに限られます。もう少し余裕があれば、一番のおススメ作品を多く上映できます。お友達誘って会員をふやしていきましょう。

その他、6月17・18日に愛知県で映画フェスティバル、9月22・23・24日に東京で映画大学が開催されます。

## 私の映画KAN『RRR』

舞台は、1920年、反英独立運動の炎が各地で燃え上がるイギリス植民地時代のインド。英国人の総督に連れ去られた幼い少女を奪い返そうと南インドの森からやってきた男と総督指揮下の警察官（大志をもって敢えて体制側に）の二人の友情と対立、そして自由と独立に向けて命を懸けて闘う姿がパワフルで壮大なアクションとともに描かれています。次から次へと驚きと興奮で息つく間もなく事件が起こります。インド映画お定まりのダンスも。西洋とインドのノンストップダンスシーン(ナートゥダンス)は、みごとな足さばきで圧倒されました。主人公のモデルは、活動した時期が違うのですが、実在したインド独立運動の英雄二人です。え～ こんな強靱な肉体を持つ人はいないだろうなんて思いながらもあつという間の3時間。エンディングでは、主演キャストはじめ監督まで踊る、踊る…そしてインドのあちこちで反英闘争を闘った英雄たちが登場する。誰だっけ？思わずパンフレットを購入しました。タイトルの『RRR』とは、水、炎、蜂起、咆哮、反乱、怒り、戦争、血など、英語や南インドの各言語の単語に含まれる様々なRを合成している。人権を守り、民族独立を願うためにたたかう民衆の力は、計り知れないものがあることを教えてくれました。楽しかった!! (和)



■題名／RRR

■監督／S・S・ラージャマウリ

■出演／N・T・ラーマ・ラオ・Jr、

ラーム・チャラン、アジャイ・デーブガン

■2022年、インド、179分、アクションエンターテインメント

## 前回の例会報告

3月22日の3月例会では、1995年の阪神・淡路大震災時、自らも被災しながらも被災者の「心のケア」に奔走した若き精神科医・安克昌氏の当時の記録を綴った『心の傷を癒すということ』を鑑賞しました。

多数の死者が出た阪神・淡路に隣接する加古川での上映では、思ったよりやや多い参加者があり、鑑賞後の感想は言葉にしにくいようでした。

参加者 97名 明石シネマクラブからは10名。

## 明石シネマクラブ例会情報

■名称／第77回特別例会『ビリーブ-未来への大逆転-』

■監督／ミニ・レダー (2018年アメリカ、120分)

■出演者／フェリシティ・ジョーンズ、アーミー・ハマー、ジャスティン・セロー、キャシー・ベイツ、サム・ウォーターストン、スティーブン・ルート、ジャック・レイナー

■ジャンル／ヒューマンドラマ(法廷)

■ストーリー／貧しいユダヤ人家庭に生まれたルース・ギンズバーグは、「すべてに疑問を持って」という亡き母の言葉を胸に努力を重ね、名門ハーバード法科大学院に入学する。1956年当時、500人の生徒のうち女性は9人で、女子トイレすらなかった。家事も育児も分担する夫のマーティンの協力のもと首席で卒業するが、女だからというだけで雇ってくれる法律事務所はなかった。やむなく大学教授になったルースは、70年代になってさらに男女平等の講義に力を入れる。それでも弁護士としての夢を捨てられないルースに、マーティンがある訴訟の記録を見せる。ルースはその訴訟が、歴史を変える裁判になることを信じ、自ら弁護を買って出るのだが。(作品ホームページから抜粋)



■日時／6月23日(金)①AM10:30-、PM2:00-、③PM7:00-

■場所／アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

事業／明石シネマクラブと複合型交流拠点ウィズあかし(明石市生涯学習センター・あかし男女共同参画センター・あかし市民活動支援センター)との共催事業。

この作品は、加古川シネマクラブでは2020年7月例会で鑑賞しています。

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

## ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL [cinemaclub@nifty.com](mailto:cinemaclub@nifty.com)

<http://kagogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

※ファクシミリの番号が変わりました。

会員数 119人(3月22日現在)